

中山道

守山宿

# まるごと ガイドブック



慈眼寺



住吉神社



東門院



勝部神社



今宿一里塚



## 中山道守山宿まるごとガイドブック発刊にあたって

平成26年3月に守山市では、地域資源を活用した各学区の活性化に取り組む「守山市まるごと活性化プラン」が策定されました。

「守山学区・吉身学区まるごと活性化プラン推進委員会」では、両学区の豊富な歴史資源や伝統文化などの『たからもの』を地域内外の人々に知ってもらうための取り組みを検討しました。

その取り組みの一つとして作成を進めていた「中山道守山宿まるごとマップ」が平成30年5月に完成しました。このマップは、守山学区・吉身学区を貫く中山道を軸に歴史資源などを鳥瞰図でわかりやすく描き、名所ごとに簡単な説明を加え、史跡巡りや寺社巡りの案内図として作成いたしました。

本書はまるごとマップには書ききれなかった内容をふんだんに盛り込んだガイドブックとして発刊いたしました。ぜひガイドブックを手に、中山道を実際に歩いてみて、歴史を身近に感じてもらえれば幸いです。

平成31年3月

守山学区・吉身学区まるごと活性化プラン推進委員会

# 目次

新川神社	1	山本正右衛門家住宅	24
東福寺	2	今宿一里塚	25
下之郷遺跡・下之郷史跡公園	3	焰魔堂西古墳	26
馬路石邊神社	4	住蓮房母の墓	27
JR三連橋	5	諏訪神社	28
西隆寺	6	十王寺	29
住吉神社	7	伊勢遺跡	30
千体地藏	8		
慈眼寺	9		
うの家	10		
天満宮	11		
源内塚	12		
中山道街道文化交流館	13		
大光寺	14		
東門院	15		
ふらっと	16		
三津川公園	17		
土橋	18		
樹下神社	19		
最明寺	20		
勝部神社	21		
勝部自治会火まつり交流館	22		
本像寺	23		

## 資料編

古高の鼓踊り	31
道標・高札場跡等	32

## 各ページの色・マークについて

	神社
	寺
	史跡等
	公園
	施設

中山道  
守山宿 まるごとマップ

江戸日本橋へ



- ①新川神社
- ②東福寺
- ③下之郷遺跡・  
下之郷史跡公園
- ④馬路石邊神社
- ⑤JR三連橋
- ⑥西隆寺
- ⑦住吉神社
- ⑧千体地藏
- ⑨慈眼寺
- ⑩うの家
- ⑪天満宮
- ⑫源内塚
- ⑬中山道街道  
文化交流館
- ⑭大光寺
- ⑮東門院
- ⑯ふらっと
- ⑰三津川公園
- ⑱土橋
- ⑲樹下神社
- ⑳最明寺
- ㉑勝部神社
- ㉒勝部自治会  
火まつり交流館
- ㉓本像寺
- ㉔山本正右衛門家  
住宅
- ㉕今宿一里塚
- ㉖焰魔堂西古墳
- ㉗住蓮房母の墓
- ㉘諏訪神社
- ㉙十王寺
- ㉚伊勢遺跡

京都三条大橋へ

## 新にい川かわ神じん社しゃ



**由来** 新川神社と称するようになったのは、靈龜2年(716年)新川小楯比賣命建新川命を合わせ祀り、新川大明神と号したところからです。延喜式神名帳には、東山道近江国野洲郡九座の一社で、川の氾濫から人々を守る司水神として崇められたとあります。

**見どころ** 社殿は1500年代に戦のため焼失したため再興しましたが、明治9年(1878年)にも焼失し、氏子が再建したものが現在のものです。

**行事** 5月5日：春祭り



外観



春祭り



春祭り

## ② 立入町11



# 東福寺<sup>とうふくじ</sup>

**由 来** 聖徳太子建立立入寺（現西隆寺）の金堂であり、新川神社の神宮寺であったと言われており、平安時代後期に東福寺と西隆寺の二寺に分離したといわれています。

**見どころ** 国指定重要文化財である薬師如来は病苦を救う仏であり、その丹精な容貌のうちに大きな慈悲の心を表現しています。

**所 蔵** 国指定重要文化財：木造薬師如来坐像  
県指定文化財：木造如来形坐像、木造菩薩形立像

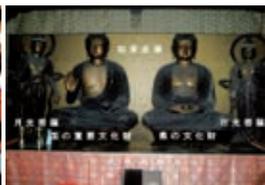
**行 事** 8月：地藏盆 9月8日：心経法要



外観



地藏盆



薬師如来



心経法要



### ③ 下之郷一丁目12-8

# 下之郷史跡公園 下之郷遺跡



由 来	下之郷遺跡は、守山市下之郷町で発見された弥生時代中期の大環濠集落です。
見どころ	下之郷史跡公園の敷地内には、下之郷遺跡の保存と活用を図るために設置された環濠保存施設があります。市街地の中にある史跡の利点を活かし、小中学生にとっては歴史学習や体験学習の場として、市民にとっては地域活動の場として、誰もが気軽に訪れ活用されている史跡公園です。国史跡指定
行 事	11月中旬(日曜日)：下之郷遺跡祭り



外観



土器展示



採掘



壁立式建物



# 馬路石邊神社

うま  
じい  
そべ  
じん  
じゃ

**由来** 今からおよそ1350年前の白鳳時代に、素戔鳴尊と大己貴命を祀って創建されました。この辺りの古郷、馬路郷の豪族石辺君氏の氏神でもあり、延喜式に記載された古社でもあります。また、荘園の時代には田中荘の総鎮守として、正一位田中大明神と崇められました。

**見どころ** 五穀豊穡を願い、毎年5月5日に豊年踊りが行われます。

**行事** 春祭 5月4日・5日 豊年踊（市指定無形民俗文化財）  
秋祭 10月第三土曜日 そうもく千燈（狂言奉納）



外観



境内



そうもく千燈



豊年踊り



## ⑤ 吉身町120地先

# JR 三連橋

さん  
れん  
きょう



こ こ は JR線の下にあるレンガ積みの三連橋で、吉身東町、立入町をつなぐ川に架かる橋で、市内唯一の三連橋です。JRの記録によると明治初期に造られたことが分かります。(旧国鉄)  
吉身東町側からのみ見ることが出来ます。

駐 車 場 なし



外観



外観



外観(立入町側)



西隆寺  
せいりゅうじ

**由来** 西隆寺は、推古2年（594年）に聖徳太子の開創と伝えられる守山市の古刹です。かつて皇太子が行啓され、戦没者のために一石一字の妙典を書写し、これを埋めて岡塚と呼び、一寺を創建して西隆寺と号したと伝えられています。

**見どころ** 現在西隆寺は、石仏の宝庫として各種出版物に紹介され、市内外から参詣客が訪れています。

**所蔵** 市指定文化財（絹本著色山越阿弥陀図、石造阿弥陀如来坐像）



梵鐘



籠



経塚



道標

すみよしじんじや  
住吉神社



由 来	住吉神社は、承久2年(1220年)に浮気定勝が本殿を建て、寛永16年(1639年)に再建されました。
見どころ	鎌倉時代に土御門天皇にとりついた大蛇(龍)を退治して焼き払ったところ、天皇の病気が平癒したという言い伝えがあり、頭部は住吉神社で、胴体は勝部神社で焼かれたので1月に行われる火祭りでは、胴体に見立てた松明は勝部神社で、頭部は住吉神社でそれぞれ燃やされます。
行 事	1月第2土曜日：火祭り(県選択無形民俗文化財)



火祭り



外観



外観



浮気町の由来額



千せん体たい地じ蔵ぞう

由 来 西暦1691年、山本三右衛門という方が子どもの死を弔うため「心聞法師」というお坊さんに頼んで作ったものが始まりといわれています。

見どころ お地藏さんは一体一体お顔が違います。ぜひ現物をご覧になってください。

所 蔵 等 千体地藏

所 蔵 8月：地藏盆



千体地藏



千体地藏



由来額



## ⑨ 吉身一丁目7-30

# 慈眼寺



由来	慈眼寺本尊の秘仏「帆柱観音」は、最澄が唐からの帰国中、船が嵐に襲われたところを観音菩薩に救われ帰国後寺を建て、船の帆柱に自らその姿を彫ったものと伝えられています。
見どころ	2018年に琵琶湖とその水辺景観～祈りと暮らしの水遺産～の構成文化財として日本遺産に認定されました。
所蔵等 行事	市指定文化財木造薬師如来像、木造日光菩薩立像、木造月光菩薩立像 1月：初観音 8月：地蔵盆 奇数月第二日曜日13時：ゴマ法要 ※本堂見学を希望される方は市文化財保護課(582-1156)まで事前 にご連絡ください。



梵鐘



鬼瓦



慈眼寺薬師如来坐像



うの  
家<sup>け</sup>

こ こ は 元内閣総理大臣 宇野宗佑氏の生家です。宇野家は、江戸時代「年寄」という役職を務め、その後荒物屋を営み、明治初期に酒造りに展換し、平成21年頃まで酒造りをされていました。この建物は明治初期頃に建てられたものと推測され、築140年程たっています。平成24年1月29日中山道守山宿の拠点として、また情報発信、憩いの場としてオープンしました。

展 示 物 元内閣総理大臣の宇野宗佑氏作品、人間国宝森口華弘氏作品(友禅)  
 設 備 展示・活動スペース、カフェ、食事処  
 駐 車 場 にぎわい駐車場(中山道街道文化交流館前) 8台  
 問い合わせ TEL : 077-583-2366



内観



宇野宗佑氏の作品



森口華弘氏の作品



裏庭

てん  
まん  
ぐう  
天満宮



由 来	<p>天徳3年(959年)東門院守山寺の境内に鎮座し、祭神は菅原道真です。天文15年(1546年)に焼失し、その後は不明でしたが、明治5年(1872年)、菅原道真の子孫で京都高辻屋敷内の社殿社宝を購入し、近在の人達の努力によって、明治11年(1878年)9月15日に、守山宿の馬継所に遷宮されました。</p> <p>その折、高辻家から江戸末期の作とされている三十六歌仙が寄進されており、全36枚が現存しています。</p>
所 蔵	市指定文化財：三十六歌仙絵(中山道街道文化交流館で展示)
祭 り	4月：勸学祭 5月5日：例大祭(元町、泉町、本町の三町がそれぞれの町に神輿を繰り出します)



本殿



舞台



版画絵・三十六歌仙額



# 源内塚

げん  
ない  
づか

**由来** 平治元年(1159年)、当時13歳の源頼朝が平治の乱に敗れて、京から東国へ敗走する途中、野路(草津市)あたりで父義朝から外れてしまい、一騎で守山に入りました。

その時、源内兵衛真弘らが落人である頼朝の首を獲ろうと襲いかかったのですが、逆に頼朝によって切られてしまいました。

このことを村人たちが哀れみ、源内を埋葬し、首塚を作りました。

**見どころ** 塚の前には「伺い石」と呼ばれる丸い石があって、霊験あらたかであり、願い事をして持ち上げた際、軽いと感じたら叶うとされています。



外観



内観



伺い石



## ⑬ 守山一丁目8-14

# 中山道街道文化 交流館



こ こ は	中山道守山宿のほぼ中心地にある無料休憩所です。江戸時代から続く商家で、ロウソクを商っていました。建物はその後立て替えられましたが商家の様子を残しています。今は、中山道を行きかう人々の休憩所としてのみならず、地元で活動するグループの拠点になっています。
展 示 物	歌川広重・渓斎英泉「木曾街道六十九次之内」、天満宮「三十六歌仙絵」、「でんでこ人形」など多数
設 備	休憩・活動スペース、バリアフリートイレ、コーヒー販売等
駐 車 場	にぎわい駐車場 (交流館前) 8台
問い合わせ	TEL : 050-5516-7991



内観



ろうそく看板



版画絵・三十六歌仙額



でんでこ人形



だいこうじ  
大光寺

由 来	曹洞宗大光寺のものは、持統天皇代までさかのぼり、甘香池のほとり に出来たお寺として醴泉寺と称しました。(醴=あまざけ) 法相宗、天台宗を経て、貞治元年(1362年)の頃に、曹洞宗となり、寺 名を改め「仏日山大光寺」と称する事になりました。
見どころ	宇野元総理墓所、岡田国太郎碑、曲直瀬道三が幼少時学んだ寺(戦国 スーパードクター：NHK歴史秘話ヒストリアで放送)
所 蔵	市指定文化財：銅造誕生釈迦仏立像(奈良時代) ※滋賀県立琵琶湖文化館収蔵
行 事	彼岸等の恒期法要年6回、定例座禅会(一般参禅可)



外観



本殿



宇野宗佑碑



ご本尊



## 15 守山二丁目2-46

# 東門院

とうもんいん



由来	延暦年間(782~805年)、「比叡三千坊」といわれる比叡山の僧坊のひとつとして最澄が開き、正確には「比叡山東門院守山寺」といいます。
見どころ	滋賀県でも重要な寺院が名を連ねる近江西国三十三ヶ所霊場に数えられる名刹です。指定文化財等多数。
所蔵	国指定重要文化財：木造不動明王坐像、石造宝塔、石造宝篋印塔、石造五重塔、木造制托迦童子立像、木造矜羯羅童子立像 市指定文化財：東門院山門葺平瓦、木製高札、オハツキイチョウ
行事	毎月17、18日：守山観音様の縁日



境内の紅葉



石造宝塔



石造五重塔



オハツキイチョウ



ふらっと

**こ こ は** 乳幼児からお年寄りまで、様々な人が気軽にふらっと立ち寄ることができ、自分の行きたいときに好きなだけいられる自由と心地よさのある居場所づくりを目的に建てられた交流施設です。

**催 し 物** 毎月1日・17日はふらっとカフェおよびふらっと朝市を開催します。季節の食べ物や野菜などを出店します。また、ふらっとカフェに併せて1品料理を格安で販売します。  
その他、折り紙や押絵なども開催します。

**駐 車 場** 中心市街地交流駐車場



内観



内観



ふらっとカフェ





## 17 守山三丁目地先

# 三津川公園

み  
つ  
が  
わ  
こ  
う  
えん



**ここは** 三津川は金森川の一部で、幅1mほどの3本の小河川が併走する数百mの区間で、18世紀以前に灌漑目的で作られました。江戸時代に入り、水利を巡る争いの結果、三津川の河床に延べ石が敷かれ、3本の小河川の幅と深さが固定化されました。川の周囲には草木や花が植えられ、市民の憩いの場となっています。

**見どころ** 3本の川が並行して流れる珍しい景観が見られます。また、四季折々の草花が年中咲き、フルーツも実っています。川には梅花藻が年2回咲き、鯉も泳いでいます。ホテル観賞スポットの1つとしても有名です。

**催し物** ほたる祭り(5月下旬)



川沿いの草花



梅花藻



鯉



土<sup>ど</sup>  
橋<sup>ぼし</sup>

由 来 旧栗太郡と野洲郡の境界であった境川、通称吉川に架かる橋。幕末の絵図でも大川として描かれ、橋の長さは20間(約36m)、幅は2間(約3.6m)あったといわれています。

瀬田の唐橋の余材で架け替えられ、公儀御普請橋として大切にされました。

たびたび氾濫を起こした大川(吉川)に架かる「どばし」は、街道往来にとって重要な橋でした。道中安全を祈った伊勢屋佐七の常夜灯は、現在は樹下神社境内にありますが、もともとはこの橋の橋詰にありました。



全景



大正中頃の土橋

樹じゆ  
下げ  
神じん  
社しゃ



由 来	創建は延久3年(1071年)とされ、祭神は櫛稲田媛命です。寛永年間(1624~1645年)に社殿が再建されましたが、吉川の大洪水で大破し、明治15年(1882年)に現在地に遷座されました。当初は十禅師宮と称し神仏習合していましたが、明治時代初頭の神仏分離令により仏式が廃され、樹下神社に社号が改称されました。
見どころ	菅原道真の息女に由縁のある安産石や、豪商伊勢屋佐七が建立した石造常夜灯、守山停車場線道(県道156号)道標などが境内に安置されています。
所 蔵	市指定文化財：石造常夜灯



境内



安産石



常夜灯



道標



さいみょうじ  
**最明寺**

**由来** 建長2年(1250年)、最明寺入道時頼が上洛の時に建立し、当時の状況等から天台宗の寺として開基したと伝わります。その後、正安元年(1299年)に遊行二祖真教上人により時宗に改宗されました。本尊は阿弥陀如来坐像。

**見どころ** 時頼が上洛の時に建立したと伝わる石造五重塔は、塔の初重軸部は幅よりも高さがあり、四面に仏が彫られています。各層の屋根石の軒反りが少なく、軸部一体のつくりであり、鎌倉時代の特徴を示しています。

**所蔵** 国指定重要文化財：石造五重塔  
大太鼓(勝部の火まつりに一番太鼓として使用されます)



五重塔



境内



本堂



鐘楼

勝部神社



由来	創建の歴史は古く、大化5年(649年)に物部宿禰廣國別人連が、祖先神である天火明命・宇摩志間知命・布津主命を物部布津神として祀ったのが神社の始まりと伝わります。
見どころ	国指定重要文化財の本殿は、三間社流造形式で、内陣両側の縁は高く精巧な手挟みが優れ、室町時代の建築様式の特徴を示しています。県選択無形民俗文化財の「勝部の火まつり(松明祭)」が執行される広大閑静な境内と、鎮守の森があります。
祭り	1月第二土曜日：勝部の火まつり(松明祭)
問い合わせ	TEL：077-583-4085



境内



本殿



鎮守の森



火まつり



勝部自治会  
火まつり交流館

かつべじちかい  
ひまつりゆうかん



こ こ は 地域住民に長い間親しまれてきた旧建物「住吉会館」を新築して誕生した施設です。800年余り続く「勝部の火まつり」の準備や祭事を担う組織「松明組」が、長くこの場所を拠点としてきたことから、この名前が付けられました。乳幼児からお年寄りまで誰もが安心して過ごせる空間を確保し、桜、楓、ケヤキなどの大木が四季折々の風情と安らぎを与えてくれます。

展示物 火まつりの写真パネル、大松明のミニチュア、大太鼓模型等  
貸館施設 会議、レクリエーションなどに利用可  
飲食施設 カフェ、食事処  
駐車場 南方徒歩1分(25台) ※大型は駐車不可  
問い合わせ 代表、貸館施設 TEL : 077-582-2931  
飲食施設 TEL : 077-583-7738



庭



内観



展示物



展示物



23

今宿一丁目2-20

# 本像寺



由 来	応長元年(1311年)創建。日蓮上人孫弟子日像上人により開かれ、当初は東門院の傍にありました、応仁の乱で焼失し、文明年間(1469～1487年)に現在地に移転したと伝えられています。
見どころ	格調高い山門(高麗門)は150年前往時の姿に復元されています。境内と墓地にある題目塔2基は市指定文化財で貞治6年(1367年)と大永4年(1524年)の銘があります。 また、境内には、江戸時代後期の奇石収集家で考古学の先駆者、俗に「石の長者」と言われた木内石亭の墓碑があります。 その他、石亭の遺愛石数点も格護されています。
所 蔵	市指定文化財：石造題目塔(本堂前、墓地内の2基)



山門



題目塔



題目塔



墓碑



やまもとしょうえもんけ  
山本正右衛門家

じゅうたく  
住宅

**由来** 中山道がにぎわった頃が偲ばれる日本建築は、今宿の街道沿いに山本家や舟橋家など近年まで数多くありました。その中でも正右衛門屋敷は、江戸末期に建てられ、建築当時の姿をとどめた豪壮かつ繊細な商家風建築として高く評価されています。

**見どころ** 格子窓が連なるつし2階や板塀と門を構えた外観と、広い土間が重厚な雰囲気漂わせています。また、往時の面影を色濃く残している数寄屋風の池庭など三つの庭があります。  
市指定文化財。 ※内覧不可



格子窓



土間



庭





## 25 今宿二丁目地先

# 今宿二里塚

いまじゆくいちり  
づか



**由来** 滋賀県内で唯一残っている一里塚で、全国的にも数少ない陸上交通に関わる史跡です。

一里塚は、江戸日本橋を起点として、主要街道の両側に一里(約4km)毎に築かれた5間(約9m)四方の塚です。慶長9年(1604年)に徳川家康の命により築かれ、榎や松などが植えられました。

馬や籠の駄賃の基準や旅程の目安、休息の場となりました。

今宿一里塚は日本橋から128番目にあたります。先代の榎は昭和中期頃に枯れましたが、脇芽が成長し、現在に至っています。

県指定文化財。現地に案内表示板あり。



イベント「一里塚探検隊」の様子



イベント「一里塚まつり」の様子





焰<sup>えん</sup>魔<sup>ま</sup>堂<sup>どう</sup>西<sup>にし</sup>古<sup>こ</sup>墳<sup>ふん</sup>

**由来** 一辺が12～18m、高さが約0.5mの大きさを測ります。採集された須恵器などから古墳時代後期に築かれた古墳として推定されていますが、未調査のため詳しい形状や規模等は分かっていません。えんまどう公園整備に伴う発掘調査の中で、古墳の東側で見つかった溝からは古墳時代前期の遺物が出土しており、周辺に古墳群があったと考えられます。

**見どころ** 周囲は田園地帯でしたが、西側に新中山道ができ、平成23年にえんまどう公園が市により開発され、公園入口の北側にそのまま保存され、上に花が植えられ市民の憩いの場となっています。



古墳全景



えんまどう公園

# 住蓮房母の墓

じゅうれんぼうははか



由来 住蓮房は、安楽房と共に法然上人の弟子で、『七箇条制誡』に16番目に署名しています。

建永元年(1206年)の年末に、京都市左京区鹿ヶ谷の法然院で法要を行った際に、後鳥羽上皇の女官の姉妹から出家得度を願い出られ、一度は断りましたが、この場で自決するとまで言われたため仕方なく出家得度させました。そのことに後鳥羽上皇が激怒し、住蓮房は近江八幡馬淵で打首処罰されました。

住蓮房の母朝子は、一目会いたいと京より刑場に向かいましたが、焰魔堂にて死の知らせを受け、近くの池に入水しました。

見どころ 市村長左衛門さんは菩提を弔うために自宅の庭にお墓を造って供養され、現在も守り続けておられます。

なお、打首の刀は、延宝5年(1677年)に大宝神社に奉納されました。この刀は今も大宝神社の祭礼の時に神輿の一番前にあり、渡御行列に加わっています。



打首の刀



諏訪<sup>すわ</sup>神社<sup>じんしゃ</sup>

由来 大宝神社にある室町時代の古文書に出てくるため、創建は鎌倉時代末期か室町時代初期と思われます。祭神は大国主命の子の南方刀美命とお後の八咫刀咩命で、建御名方神は総本社である長野県の諏訪大社の祭神です。

元々は北側の現道路路に設置されていましたが、道幅を広げるために、昭和27年に今の十王寺の用地内に移設されました。また、隣地の稻荷神社も同時に今の位置に移設され、二つの神社を同じ場所にまとめられました。

祭り 5月4日：大宝神社の例大祭の北の旅所



境内



例大祭





伊勢遺跡

**概要** 日本の国がつけられる時代（弥生時代後期）に約100年間栄えた重要な遺跡です。面積は約30万㎡で守山市伊勢町、阿村町、栗東市野尻に広がる大規模遺跡です。弥生時代から古墳時代の倭国の形成を考える上で貴重な遺跡と評価され、平成24年に国史跡に指定されました。

**由来** 昭和55年に溝や柱穴が発見され、翌年に弥生時代後期の五角形住居や竪穴住居、古墳時代前期の方形周溝墓8基が検出されました。平成4年には弥生時代の大型建物と推定される柱穴が発見され、平成5～13年にかけて、周辺部にも大型建物跡が次々と見つかり、その後様々な形式の大型建物跡が13棟発見されました。



柱穴



建物群の想像図



全景

※現地には看板が立っているだけで、遺跡は見られません

# 資料編

## 古高町296

### ふるたか 古高の こおど 鼓踊り



**由来** 雨乞いを祈願するときや、慈雨に恵まれた際のお礼参りのときに奉納される踊りであると伝えられています。歌詞の内容や踊りに使う道具から推察すると、鎌倉時代に庶民の間で踊られていた田楽踊りに由来するものと考えられます。現在は4年に1回、8月下旬に大將軍神社で奉納されます。

**見どころ** 中央に音頭取り、その外に太鼓踊りと踊り子が輪を組んで行われます。踊りには歌詞がつき、道行き歌、お礼踊り、お宮踊り、お寺踊り、宝踊りなど19の種類があります。それぞれの歌詞には昔の人々の考えが読み込まれています。  
県選択無形民俗文化財。



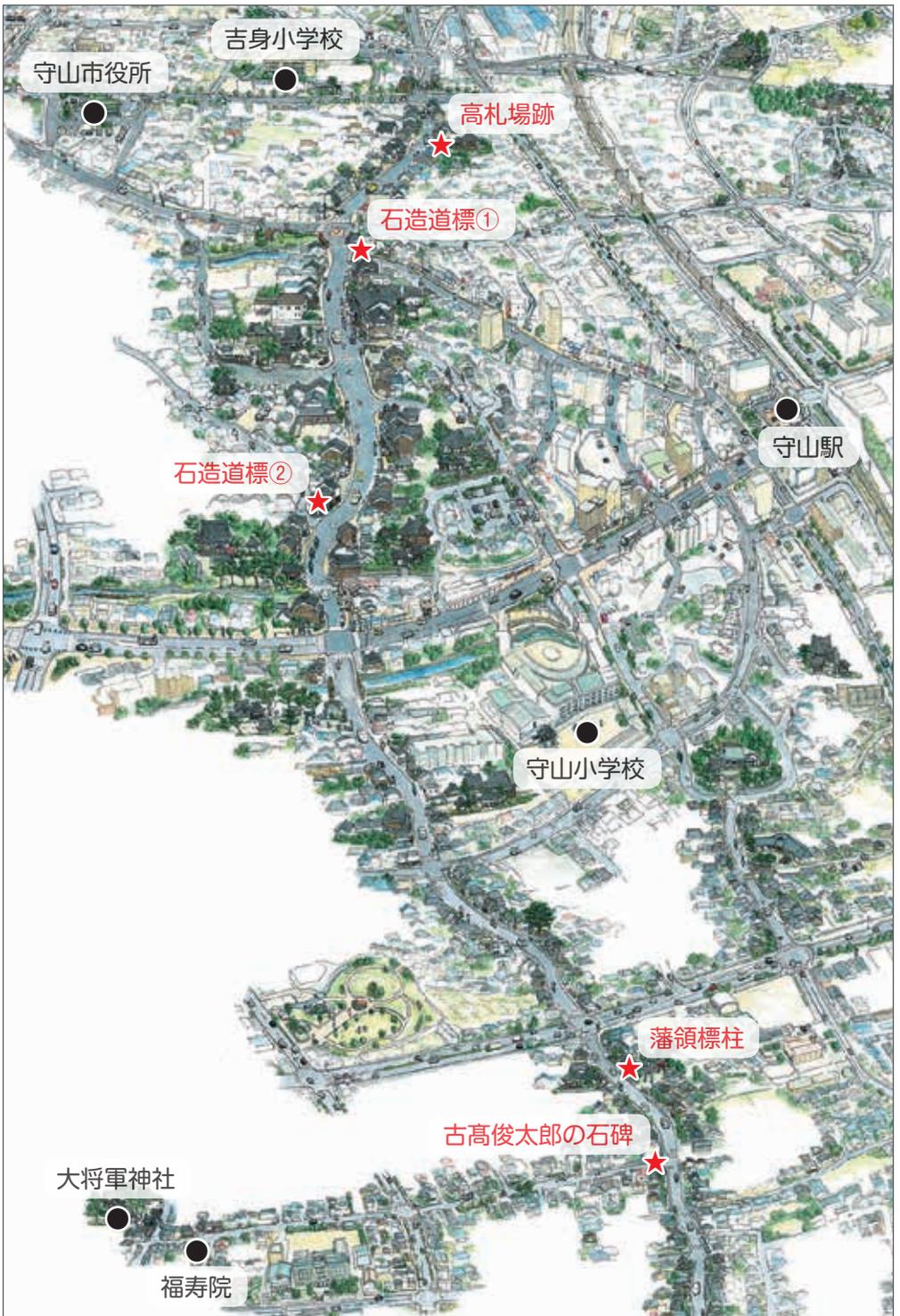
踊りの様子



大將軍神社



神社内の石碑



## 高札場跡

慈眼寺から北へ約100mの地点で、中山道から東に延びる道路(石部道)との交差点あたり。遠見遮断のため道が屈曲する広い場所で、かつて徳川幕府が政策などを徹底させるための法度や掟書などを木札に記して掲げた高札場が設けられていました。



## 石造道標①

守山宿の北端、善光寺道との交差点にあります。

道側の面に『高野郷新善光寺道』『すぐいしべみち』と刻まれています。新善光寺は栗東市高野にあります。『すぐいしべみち』とは東海道石部宿への案内を表しています。



## 石造道標②

中山道と木浜道の交差点にあります。

各面には

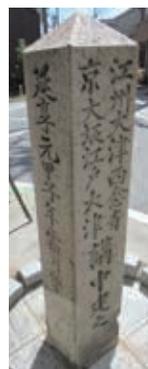
『右 中山道 并 美濃路』

『左 錦織寺 四十五丁 こ乃者満ミチ』

『江州大津西念寺/京大坂江戸大津 講中建之』

『延亨元甲子年霜月 願主 釋宗有/釋浄圓/釋祐壽』

と刻まれています。



右は美濃へと続く中山道で、左は錦織寺(中主)に至る約4kmの道のりであり、木浜港へも通じることを示しています。また、大津西念寺講中が延亨元年(1744年)に建立したことも刻まれており、石造道標としては古く、また数少ないため、市の文化財に指定されています。

## 藩領標柱

諏訪神社敷地の北西の角にある高さ約1mの石柱です。

側面に『従是南淀領』と刻まれています。

これは、山城国淀藩（10万2千石）の飛び地領であったことを示す境界石の標柱で、江戸時代に建てられたものです。

淀藩は譜代大名であり、慶安4年（1651年）の藩領図によると、焰魔堂、二町、古高の一部、三宅、十二里などを領有していました。



## 古高俊太郎の石碑

諏訪神社から南に約250mの地点にある石碑です。

側面に『古高俊太郎先生誕生地 これより西一軒』と刻まれています。

池田屋事件に関わったことで有名な古高俊太郎は、地元の名士・古高一族の出身で、尊皇攘夷の理想を掲げていたことで知られます。

この地点から500mほど西に行ったところに福寿院があり、そこには俊太郎の顕彰碑が建てられています。また、寺院裏の古高一族の墓所には、俊太郎の墓もあります。



中山道守山宿まるごとガイドブック

発行 ● 守山・吉身学区まるごと活性化プラン推進委員会

発行日 ● 平成31年3月